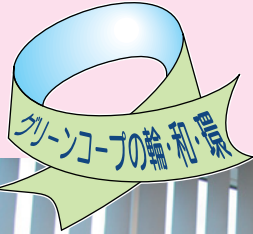




# 共生の時代

'10  
12月

●発行:グリーンコープ共同理事会 ●編集:共生の時代・編集部 ●〒812-8561 福岡市博多区博多駅前一丁目5番1号 カーニープレイス博多4階 TEL092(481)7923 FAX092(481)7876



プロフィール  
鹿児島市在住。現在、家計とくらしのワーカーズ円縁のワーカ―として活動。グリーンコープかごしま生協前副理事長。夫、長男(23歳)、長女(17歳)の4人家族

グリーンコープかごしま生協組合員  
まえ かど  
**前門 京子** さん

**組** 会員活動をはじめたのは15年ほど前。きっかけは、リビング・特企(現在のカタログ「暮らしのグリーン」)委員に応募したことから。生活雑貨が好きだったこともあり、学生時代を過ごした福岡に会議で行けることも魅力だった。2歳の娘を託児所に預けて月1〜2回の会議に参加。会議では活発な意見交換があり、モニターした商品がカタログに載る。それまでの日常では経験したことのない楽しさと充実感だ。その経験が高じて、かごしまの商品委員長になる。国産小麦の産地、北海道でパンに合う品種の改良に、道庁の担当者やメーカー、生産者が一体となって熱心に取り組んでいるようすを視察。「あの時の感動は、今でも忘れられないなあ。そうした努力のおかげで私たちの食卓に国産小麦のパンがのる。食べ続けていくことの大切さを感じて

感じました」「商品の開発というのは、業界の最先端の情報に触れるということ。専門家でも何でもない組合員の日常生活の実感からの意見を大切にしているグリーンコープの姿勢に魅せられたというか、信頼を厚くしましたと述懐する。そして、2003年副理事長に就任し福祉を担当。福祉委員として「抱擁館福岡」の設立に繋がるホームレス支援をしている人々との出会いや生活再生事業を学ぶ中で、自分の身の回りの世界だけでは知りえなかった、多くの人々の存在に気付かされる。

任期終了後の2008年、組合員活動の次のステージとして生活再生事業の一翼を担うワーカーズ円縁の設立メンバーとなる。現在は家計管理や共済の学習会の講師、ワーカーズの運営委員として活躍中。「自分の家計を見つめ直したり、子どもたちにお金の扱い方を学んでもらったり、

## グリーンコープの人と活動が好き!



### Contents

国産農産物を応援するための生産奨励金	2
うちのメーカー・うちの生産者 <sup>®</sup> JAさが 赤とんぼ米のチキンライス	3
2010年度 from ネグロス・クリスマスキャンペーン ネグロス たゆみない自立への歩みは 支えあいのアジアネットワークへと広がる	4・5
ネオニコチノイド系農薬学習会 ミツバチが知らせる農薬の実態	6
生活再生ワーカーズ・コレクティブ「ともに」設立	7

わが家の3人子どもたちも大きくなって、それぞれの道を歩きはじめた。内、上の2人は家を離れて暮らしている。長男は横浜、長女は広島。家を出た当初は、まめにメールをくれたが、週に一度になり、月に一度になり、そのうち特に用がなければ何の連絡もしてくれない。毎日忙しいのだらうし、便りが無いのは元氣な証拠と自分に言い聞かすが、やっぱりちょっと寂しい。さてと、自分のことを振り返ってみたとき、大阪で一人

### 送 信

暮らしている母に、最近電話をしていなかったなと気づく。そういえば私も若いころは忙しさにまけて、ひと月、ふた月実家に連絡をしないこともあったなと思いつく。子どもたちに偉そうなことは言えないかと反省。でも、子どもたちよ、そんなところは母に似なくてよいから、たまには連絡をよこさない。そして、お正月には元氣な顔を見せて帰っておいで。  
グリーンコープ生協(長崎)理事長  
高橋 純子

# 国産農産物を 応援するための生産奨励金



収穫を待つ大豆畑



JAむなかた、大豆生産者、豆腐メーカー、組合員が一堂に会した

グリーンコープは日本の農業を守るために、農畜産物はもちろん加工食品も原料はできるだけ国産を追求しています。国内の生産が厳しい状況にある農産物生産者には安定的に継続して生産できるように取り組んでいます。産直関係でないため直接価格の相談ができない生産者には、国産を少しでも増やしていくように支えていくための生産奨励金を届けています。

2010年度、新たに豆腐や揚げの原料である国産大豆の生産者にも生産奨励金を届けることになりました。11月5日に福岡県宗像市で行われた豆腐用大豆産地視察交流会には、組合員、JAむなかた、生産者、豆腐メーカーなど65人が集まりました。交流会のようすを報告します。

あわせて、ジュース用(加工用)トマトの産地へ生産奨励金を届けたようすも紹介します。

グリーンコープはこれまで、産直米や産直びん牛乳、ジュース用(加工用)トマト、落花生、なたね油の生産者に生産奨励金を届けてきました。カタログGREENには2010年32号から対象商品に生産奨励金マークを付けています。

**国産大豆生産者との交流**

日本の大豆の自給率は5%。低価格の輸入大豆に押し下げられ、国内の生産はどんどん減っている状況です。グリーンコープは少しでも国産大豆を守ろうと、豆腐や揚げの原料である九州産大豆(フクユタカ)について

も、2009年産(2010年供給分)から生産奨励金を設けました。フクユタカはJAむなかた、JA筑前あさくら、JA柳川の3農協と昨年度より5年間の複数年契約を結び、安定的に原料を確保することができるとなりました。毎年一カ所ずつ各農協との交流会を行っています。

2010年度はJAむなかたと交流を行いました。収穫後の大豆を選別・乾燥するカントリーエレベーターを視察。その後、大豆畑を見学。大豆の実は黄金色に色付いて11月中旬からはじまる収穫を待っていました。今年は大雨の影響で

とき直しをしたものの、その後の生育は順調で安定した収量が望めるとのこと。交流会ではまず、JAむなかたの田中保政さんから「日本の食文化を守るためにも国産大豆の生産を続けていきたい」と挨拶がありました。昼食交流では組合員、生産者、メーカーがテーブルを囲みました。組合員からは国産大豆の豆腐や揚げを食べ続けたらと思うと、生産者からは大豆生産の大変さを聞くことができました。

JAむなかたの次郎丸弘樹さんから、「今年大豆の生育状況は、台風などが来なかったことから良好です」と報告を受けました。生産者の上野篤志さんは「安



カタログGREENの対象商品についているマーク

心・安全な大豆を作ろうと一生懸命頑張っています。天候の影響は受けませんが、これからも品質のいい大豆を作り続けていきたい」と大豆作りにおける意気込みを話しました。

豆腐メーカーの大石博美さんは「大豆の圃場を見て安心しました。生産者の方々がいい大豆を作ってくれていることが、一番いい商品につながります」と、よりよい商品を作りたいという思いを述べました。

商品おすすめ委員会委員長 長藤みさきさんは「生産者はきちんと収入が確保されないと暮らしていけない。作っていただく方がいらつしやらないと私たちも食べるのができない。お互いに助けあう関係で生産奨励金があります。私たちはメーカーや生産者との関係を大切にしています」と組合員の思いを伝えました。

終わりにかこしまの川上由美子さんから「交流会のようすをそれぞれ単協で報告し、一人でも多くの組合員に利用してもらえよう頑張りたい」。JAむなかたの小島信昭さんから「生産者も組合員のみならずと直接話せてよかった。自分の飯のためだけじゃない、誰かのために働いているという思いがあれば、よけい力も入ると思います」と力強い挨拶がありました。

## ジュース用(加工用)トマト生産者に生産奨励金を届けました



目録を手渡す手島委員長

**JA グリーン長野**  
**JA ながの**  
**JA あづみ**

11月9日、おおよかの中村理事長、おおよかの奥田理事長、かこしまの宍道副理事長、共同商品検討委員会手島委員長が「JAグリーン長野」「JAながの」「JAあづみ」の加工用トマトの生産者の皆さんに生産奨励金を届けてきました。

各産地とも、長梅雨、酷暑、夏のゲリラ豪雨、20年前までは長野県にはいなかったオオタバコガの被害などで収穫量は減ったということでした。平均80歳前後の高齢化により辞める生産者もいて作付面積は減っているが、会社を定年退職して就農する二代目、三代目の人たちもいて、生産者数は若干増えているとのことでした。

「今年度、生産奨励金のマークも組合員で決めました。組合員は応援していくことを自主的に行っています。今回直接お会いして奨励金をお渡ししたことを、単協に戻って多くの組合員に伝えていきます」と挨拶しました。

生産者からは「グリーンコープからの生産奨励金は、私たちにとても作り続ける力となっています。この何年か異常気象も続き厳しい状況ですが、皆さんの期待に応えられるよう頑張ります」と前向きな言葉をいただきました。



左から福嶋副理事長、杉尾理事長、生産者の石川さん、長澤さん、角理事長、田原理事長

11月9日、(島根)の角理事長、ふくおかの田原理事長、さかの福嶋副理事長、みやぎの杉尾理事長が加工用トマトの産地のひとつである北海道富良野市を訪れ、生産者に生産奨励金を届けてきました。

JAふららの贈呈式には生産者を代表して長澤さん、石川さん、JAふららのからは植崎代表理事専務をはじめ職員の方々が参加されました。グリーンコープからの開会挨拶、JAふららのからの挨拶に続き、グリーンコープから生産者に生産奨励金目録を手渡し、(島根)の組合員から寄せられたメッセージと、グリーンコープのトマトジュース、トマトケチャップを贈りました。

JAふららのの加工用トマト生産者は現在16戸で、高齢の方も多いためのことですが、生産者からは「遠いところから来ていただきありがとうございます。これからも安心・安全に生産する努力をし、来年もよいトマトを作ります。安心して食べてください」と力強い言葉をいただきました。

**うちのメーカー**

103

佐賀県伊万里市  
JAさが  
伊万里ピラフ工場

**うちの生産者**

# 産直赤とんぼ米の チキンライス

これまで、グリーンコープの冷凍加工米飯を製造していたメーカーが事情により取り引きを中止。今回新たに製造メーカーを探していたところ、JAさが名乗りを挙げました。カタログGREEN32号よりリニューアルして新登場した冷凍加工米飯は、原料を国産米から産直赤とんぼ米に変えたことで、よりいっそうこだわりのあるおいしい商品に仕上がりました。

今回、チキンライスの製造を行っているJAさが伊万里ピラフ工場（以下伊万里ピラフ工場）を訪ね、工場長の山口浩敏さんをはじめ、みなさんに話を聞きました。



左から徳永さん、中村さん、山口さん、前田さん、丸田さん

グリーンコープで冷凍加工米飯の検討をする中で、産直米の有効活用を視野に入れたところ、これまでの国産米からの切り替えが可能になった。また産直赤とんぼ米の玄米を、直接メーカーに届けることなどにより低価格が実現。より安心で、こだわった商品が完成し、組合員に利用してもら

伊万里西部に位置する伊万里ピラフ工場では、産直赤とんぼ米のチキンライス、ドライカレー、えびピラフ、高菜ピラフが作られている。農産加工課の丸田佑介さんは「私たちが取り扱っている商品にはできるだけ地元のものや、国産品を使って作っています。グリーンコープの商品へのこだわりを聞き、これまでの味やよさを残しつつ、原料もできるだけグリーンコープのものや、国産の原料を使って作ろうと思ひ、お話を受けました」と、意気込みを語った。

## 佐

伊万里西部に位置する伊万里ピラフ工場では、産直赤とんぼ米のチキンライス、ドライカレー、えびピラフ、高菜ピラフが作られている。農産加工課の丸田佑介さんは「私たちが取り扱っている商品にはできるだけ地元のものや、国産品を使って作っています。グリーンコープの商品へのこだわりを聞き、これまでの味やよさを残しつつ、原料もできるだけグリーンコープのものや、国産の原料を使って作ろうと思ひ、お話を受けました」と、意気込みを語った。

伊万里ピラフ工場の大きな特長は、炊飯と冷凍方法にある。パラットとしたピラフに仕上げるために蒸気炊飯機を使用している。下準備では、おろしにんにく、カット玉ねぎ、産直若鶏肉を一番搾りなたね油でソテ

「安心・安全」の確認を行っています」と加工企画課の中村美保さん。

伊万里ピラフ工場の大きな特長は、炊飯と冷凍方法にある。パラットとしたピラフに仕上げるために蒸気炊飯機を使用している。下準備では、おろしにんにく、カット玉ねぎ、産直若鶏肉を一番搾りなたね油でソテ

## む

今回リニューアルしたチキンライスの特長は、原料の産直赤とんぼ米だけではない。産直若鶏、うすターソース、トマトケチャップ、一番搾りなたね油、花物語などグリーンコープ自慢の肉や調味料を使用している。その他の具材もできるだけ国産野菜を使用。「使用する原材料が約束通り作られているか工場などを見に行き、「安心・安全」の確認を行っています」と加工企画課の中村美保さん。

伊万里ピラフ工場は、1984年創業。主な製造品は冷凍米飯類。朝の8時から翌朝2時まで稼働している。

「工場内で具材の入った容器や大鍋などを、直に床に置かないよう独自のキャスターを作りました。使用する物はステンレスやアルミ素材の物で、間違っても金属探知器に混入しても金属探知器

ット人参、グリーンピースをプランチング（加熱処理）。炊き上がった米に調味液と調味油をスプレーし、下準備した具材を順次投入、機械で攪拌。これでチキンライスができあがる。「できたてのチキンライスを冷却し、マイナス40℃のトンネルフリーザーを約5分で通過させます。冷凍米飯作りは温度管理と時間が重要で「す」と加工企画課係長の徳永さんは言う。

## 徹底した安全対策

伊万里ピラフ工場は、1984年創業。主な製造品は冷凍米飯類。朝の8時から翌朝2時まで稼働している。

JAさがでは創業以来、地元でとれる農畜産物で地域性を生かした加工食品作りに積極的に取り組んできた。2004年にISO9001（品質マネジメントシステム）、昨年12月にISO22000（食品安全マネジメントシステム）を取得。品質はもちろんのこと、食品の安全を保持するための従業員教育にも取り組んでいる。

「組合員さんに食べても良かった時に『これはグリーンコープのケチャップの味がする』と感じてもらえるように、これまでのチキンライスのおよさを残しつつ、よりいいものを作りたいです」と中村さん。「グリーンコープの原料や産地へのこだわりは、JAさがが大切にしているものと同じです。産地や原料、製造工程すべてが明確なので食べてもらう人に納得してもらえます。これからもよりグリーンコープらしいと言われる商品に近づけていきたいと考えています」と山口さんはチキンライスなど、冷凍加工米飯作りへの意気込みを語ってくれた。

## 安心・安全を追求して

JAさがでは創業以来、地元でとれる農畜産物で地域性を生かした加工食品作りに積極的に取り組んできた。2004年にISO9001（品質マネジメントシステム）、昨年12月にISO22000（食品安全マネジメントシステム）を取得。品質はもちろんのこと、食品の安全を保持するための従業員教育にも取り組んでいる。

### チキンライスができるまで

主な原料

- 産直赤とんぼ米
- 産直若鶏ムネ
- カット玉ねぎ
- ホールコーン
- カットにんじん
- グリーンピース
- トマトケチャップ
- うすターソース
- 一番搾りなたね油
- 花物語
- マーガリン
- 塩こしょう

不良米の除去

洗米

蒸気炊飯

調味液スプレー

調味油スプレー

具材投入

攪拌

冷却(40℃)

凍結(-40℃)

袋・箱詰め

完成

米詰めた米を3つの機械(異物除去、色彩分別機、金属探知器)に通して選米

炊き上がった米に調味液をスプレーし、調味油をコーティング

具材の投入。ベルトコンベアで運ばれてくる米に具材を投入していく

-40℃で凍結

袋詰めされたチキンライスを箱に詰める

「組合員さんに食べても良かった時に『これはグリーンコープのケチャップの味がする』と感じてもらえるように、これまでのチキンライスのおよさを残しつつ、よりいいものを作りたいです」と中村さん。「グリーンコープの原料や産地へのこだわりは、JAさがが大切にしているものと同じです。産地や原料、製造工程すべてが明確なので食べてもらう人に納得してもらえます。これからもよりグリーンコープらしいと言われる商品に近づけていきたいと考えています」と山口さんはチキンライスなど、冷凍加工米飯作りへの意気込みを語ってくれた。

副工場長の前田さんは「安心・安全」をモットーに創意工夫を凝らすという経営理念の下、私たちは安心してみなさんに食べてもらえるよう努めています」と話す。

「組合員さんに食べても良かった時に『これはグリーンコープのケチャップの味がする』と感じてもらえるように、これまでのチキンライスのおよさを残しつつ、よりいいものを作りたいです」と中村さん。「グリーンコープの原料や産地へのこだわりは、JAさがが大切にしているものと同じです。産地や原料、製造工程すべてが明確なので食べてもらう人に納得してもらえます。これからもよりグリーンコープらしいと言われる商品に近づけていきたいと考えています」と山口さんはチキンライスなど、冷凍加工米飯作りへの意気込みを語ってくれた。

# の歩みは ネットワークへと広がる



ネグロス・生産者と交流する2010年度組合員ツアーの皆さん

フィリピン・ネグロス島は今もサトウキビ生産を基幹産業とする砂糖の島です。ところが1980年代半ば、島は砂糖の国際価格の暴落から深刻な飢餓状態に陥りました。国際的な支援がはじまり、日本では1986年、日本ネグロス・キャンぺイン委員会(JCNC)が発足しました。グリーンコープもその輪に加わり、ネグロスへの緊急支援を開始しました。

それから四半世紀が経とうとしています。今、自立への歩みはネグロスを越え、アジアの他の国や地域まで巻き込む支えあいのネットワークへと発展しています。

ネグロスの自立への歩み、そして「今」を紹介しします。



**ネグロス**  
毎年豊かな実りを見せる  
バラゴンバナナ



**ネグロス・カネシゲファーム・ルーラルキャンパス**  
畑仕事に精を出す第一期の研修生たち。  
地元小学校からも生徒たちが見学に来るようになった

「魚ではなく、魚を獲る網がほしいのだ」という自立への意志と継続的な支援を求めるメッセージも届きました。「農園の賃労働者から自分の土地を持つ農民になる」。めざす地平が明確になりました。

その頃グリーンコープは、1988年のグリーンコープ連合設立に追われる状況でしたが、前身生協の一つがネグロスに組合員を派遣しました。ネグロスの窮状をつぶさに見てきた彼女たちは、「同じ母親としてこれを見送ることはできない」と涙ながらに支援の開始を訴えました。それに多くの組合員が呼応し、1987年緊急支援として、まずマスコバド糖の輸入を開始しました。「ネグロス」はグリーンコープの成熟を促す契機にもなりました。

ついでバナナの輸入が粗上にあがりました。「バナナはプランテーションバナナではなくネグロスの山野に自生しているバラゴン種にしよう。少し酸味があたるバラゴン種を日本の母親たちは支持するはずだ」。数あるバナナの中から皮が厚くて輸送にも耐えうるバラゴン種を選定したのは、グリーンコープの故兼重正次専務でした。貿易実務はATJ(オルター・トレード・ジャパン)が担い、「民衆交易」という言葉も生まれました。

「自分たちのバナナを日本で待っている人たちがいる」。ネグロスの人たちは立ち上がり、1989年、ネグロスバナナの出荷がはじまりました。当初のバナナは輸送設備が整っていませんでした。日本に着いたときは追熟が進み真っ黒で、商品価値としてはゼロに近いもの。それでも、組合員には待ちに待ったバナナで「クキゾウムシも悲しいのだよ」という故兼重専務の言葉はネグロスの地に「生命系の循環」が必要であるという示唆となりました。

早速バナナ1キログラムあたり20円の自立基金がプラスされ、堆肥センターなどを建設。それが後にカネシゲファームに発展していきます。

**自立へむけての試行錯誤**

1996年、ネグロスでは「PAP(パップ)21」という民衆農業計画案が作成されます。生産から販売・消費までを農民たちが主体となつてその仕組みをつくるという計画案でした。しかし、自分の土地を持つと思つても一等地は地主が手放さない。僻地の農地には灌漑施設も道路も整備されていない。また何よりも、幾世代にもわたつて賃労働を続けてきた結果、自己決定するという、自立には不可欠な強い意志を各人が持つのはなかなか困難なことでした。

ところが、身近なところからネグロスの人々は大きな影響を受けます。2003年、隣のセブ島に視察に行つたネグロスの農民は、



バナナの花

「追肥をする」ことを知らなかつたために土壌が弱る連作障害でした。このとき、「悪いのはクキゾウムシではない。クキゾウムシも食

べるものがなくなり仕方なくバナナをおそつたのだ。「クキゾウムシも悲しいのだよ」という故兼重専務の言葉はネグロスの地に「生命系の循環」が必要であるという示唆となりました。早速バナナ1キログラムあたり20円の自立基金がプラスされ、堆肥センターなどを建設。それが後にカネシゲファームに発展していきます。

ネグロスの「今」は昨年スタートした「カネシゲファーム・ルーラルキャンパス」に代表されます。「無学で貧乏だから農業せざるを得ない」という価値観を覆し、「自分の力で生きることを」を学んでもらうための実験農場です。研修生は病虫害でバナナが全滅した時期に生まれた子どもたちです。学校に行くどころではありませんでした。第一期生の6人の研修生たちは、養豚や野菜栽培技術を学び、仲間と寝食を共にし、日本など海外の人とも出会う中で大きく成長しました。

「ネグロスで15万人の子どもが飢えに直面している。1980年代半ばのユニセフの報告です。飢餓に陥つたのはサトウキビ農園で働く労働者とその家族たち。農園の地主が暴落した砂糖の国際価格が再び上がるまで砂糖生産を中止したため、労働者は失職し、米や食料を買う現金を得る道を絶たれてしまったのです。もし彼らが労働者でなく自分の土地を持つ「農民」であったならば、これほどの深刻な飢餓は発生しなかつたでしょう。ネグロスの飢餓は、400年以上にわたる他国の植民地政策によって農耕技術を失つてしまうというつづられた飢餓でした。

この貧困・飢餓の構造を変えることが究極の目標になりました。ネグロスから

は「魚ではなく、魚を獲る網がほしいのだ」という自立への意志と継続的な支援を求めるメッセージも届きました。「農園の賃労働者から自分の土地を持つ農民になる」。めざす地平が明確になりました。

その頃グリーンコープは、1988年のグリーンコープ連合設立に追われる状況でしたが、前身生協の一つがネグロスに組合員を派遣しました。ネグロスの窮状をつぶさに見てきた彼女たちは、「同じ母親としてこれを見送ることはできない」と涙ながらに支援の開始を訴えました。それに多くの組合員が呼応し、1987年緊急支援として、まずマスコバド糖の輸入を開始しました。「ネグロス」はグリーンコープの成熟を

促す契機にもなりました。ついでバナナの輸入が粗上にあがりました。「バナナはプランテーションバナナではなくネグロスの山野に自生しているバラゴン種にしよう。少し酸味があたるバラゴン種を日本の母親たちは支持するはずだ」。数あるバナナの中から皮が厚くて輸送にも耐えうるバラゴン種を選定したのは、グリーンコープの故兼重正次専務でした。貿易実務はATJ(オルター・トレード・ジャパン)が担い、「民衆交易」という言葉も生まれました。

「自分たちのバナナを日本で待っている人たちがいる」。ネグロスの人たちは立ち上がり、1989年、ネグロスバナナの出荷がはじまりました。当初のバナナは輸送設備が整っていませんでした。日本に着いたときは追熟が進み真っ黒で、商品価値としてはゼロに近いもの。それでも、組合員には待ちに待ったバナナで「クキゾウムシも悲しいのだよ」という故兼重専務の言葉はネグロスの地に「生命系の循環」が必要であるという示唆となりました。

早速バナナ1キログラムあたり20円の自立基金がプラスされ、堆肥センターなどを建設。それが後にカネシゲファームに発展していきます。

## 2010年9月・カネシゲファーム・ルーラルキャンパス卒業式



- 地主がいる農園でも、マニラで働いたハンパーガーショップでも、僕の時間は全部コントロールされ、命令された仕事をするだけだった。農業は誰からも指示を受けず、時間も自分で決められる。僕ははじめて、野菜や豚や鶏も心を込めて世話をすることの大切さを学んだ。  
エリマー・20歳
- 父は土地闘争、協同組合、畑の仕事でいつも忙しかつたのに、僕はほとんど手伝ってなかつた。土地があることがどんなに大切なことか。今度は僕たちがその土地を守り、たくさんの作物を作っていききたい。自分で責任を持つという大切なことを学びました。  
レドハン・24歳
- 研修生それぞれの畑をもらい自分たちで計画して野菜を作り、それが毎日売れました。母に何度かお金を渡しましたが、そのたびに泣いてお礼を言われました。第2の家族と思える仲間や農場の人たちに出会え、日本人にもたくさんの友だちができました。  
ジョネル・19歳



# ネグロス



## たゆみない自立へ 支えあいのアジア

**ネグロスから広がる  
アジアのネットワーク**

2008年、J CNCは、「PAP 21」が一定の役割を果たし多くの独立した農民組織が生まれたことを確認し、その活動をAPLA（オルタナティブ・ピース・リンク）に引き継ぎました。リンクが表わすようにアジアの人々が繋がらあひ、お互いの経験を学びあうことを目的としています。

北部ルソンはネグロスバナナの補助産地としてバナナを栽培してきました。そのバナナが台風と病虫害で壊滅状態となり、バナナに頼らない「地産地消」の試みをはじめました。COR DEV（農村発展のための



**北部ルソン**  
天に向かって耕される棚田。北部ルソンの棚田の中には世界遺産になっているところもある



協同組合）が組織され、もともと稲作が盛んなこの地域で有機米の栽培を開始しました。また、女性たちが織物グループを組織し生産販売するなど活気付いています。

東ティモールは人口の四分の一がコーヒー栽培に携わり、収穫時期になると家族総出で収穫にあたります。ここでもコーヒーだけに頼らない、有畜複合農業をベースにした農業をはじめて



**東ティモール**  
コーヒー農園の皆さんとATT(オルター・トレード・ティモール)スタッフ。右はコーヒーを収穫する少女



カネシゲファーム・ルーラルキャンパスで記念写真

インドネシアでは、エコシュリンプ加工工場の労働者たちが協同組合ROSTRUM(ロストラム)をつくりました。またマンゴロープの植林や、自前のせっけん工場を作ったせっけんの使用をすすめるなど自然を守る取り組みも盛んです。

現地の人たちの笑顔を出すと幸せな気持ちになる

2010年度 from  
ネグロス組合員ツアー

グリーンコープは、アジアとの連帯・共生を組合員が肌で感じられるように、2年に1度 fromネグロス組合員ツアーを実施しています。2010年度は8人の組合員がネグロスとインドネシアを訪問しました。

一行はツアーの8日間、現地の空気を胸いっぱい吸い込みながら、行く先々で温かな交流を重ねました。そして旅を終えた今、改めて今回の旅の意味を問いはじめています。参加者の感想を紹介します。

★「アティバン」とは心を込めて世話をするという現地の言葉。カネシゲファーム・ルーラルキャンパスでは研修生たちが野菜や豚や

鶏たちを大切に「アティバン」しているようすが伝わってきた。堆肥作りはBM活性水の活用、豚の糞はバイオガスとして利用するなど循環が成り立っていた。研修生たちは毎日さまざまなことを学んでいる。

★ネグロスの女性の平均寿命は50〜60歳。ほとんど

★現地の人たちは自身と家族のために支えあひ、頑張れば手が届くほどの目標を必ず持っている。

だからあんなに生き生きと映るのか？自分を振り返った時あまりにも違うことが衝撃だった。自分なりに日々一生懸命頑張っているが、ただやりすぎしてはいるだけではないか。彼らの姿勢から学ぶことが多かった。

★ATINA(オルター・トレード・インドネシア)スタッフのお宅で開催されたせっけんセミナーに参加。こんな遠くで同じせっけん運動をしている人たちがいることに感動した。私たちは「泡立ち実験」をしたが、うまくいき大うけだった。

★今回のツアーは南と北の共生がテーマと考えていたが浅慮だった。全ての面で四つの共生を実感した。どの地であつてもそこにいるのは人。豊かな自然の中で女も男も一緒に働いている。国も言葉も肌の色も違うが同じ女性で母親だった。

★ノルマ・ムガルさん(オルター・トレード財団会長)の話に心から共感し感動した。「グリーンコープは商品ではなく、その傍らにある『命』を見つめてくれた。ずっと私たちの心の支えだった。今、私たちの関係はアジアの連帯に発展し、一緒に何が出来るかという対等な関係に移っている。商品は連帯、そして信頼関係のシンボル。例え商品がなくなってもグリーンコープとの関係がなくなることはないだろう。」



**インドネシア**  
広々とした粗放養殖池でエコシュリンプの体験収穫をする組合員ツアーの皆さん

# ミツバチが知らせる

## 農薬の実態

### ミツバチの大量死が警告すること

グリーンコープでは、生産者と共にできるだけ農薬を使用しない農業に取り組んできました。環境ホルモン・発がん性の疑いが指摘された農薬については、生産者と相談しながら、代替が可能なものから変更を行っています。2009年、ミツバチの大量死との因果関係を疑われているネオニコチノイド系農薬の問題が指摘されました。グリーンコープは、使用実態調査や学習することから始めるという方針です。

2010年6月には生産者、10月18日には共同体育会メンバ―を対象に、ダイオキシン・環境ホルモン対策国民会議(NPO法人)理事の水野玲子さんを講師に学習会を行いました。要旨を紹介します。



講師プロフィール  
水野玲子さん  
特定非営利活動法人  
ダイオキシン・  
環境ホルモン対策  
国民会議 理事

1990年代から、ヨーロッパ諸国で、ミツバチの大量死や数の減少が報告されはじめた。この現象は蜂軍崩壊症候群(CCD)と呼ばれている。主な特徴は、①巣に働きバチがほとんど残っていない②ミツバチの減少が確認されているが、死骸がみつからない③巣には多数の蛹が残っている④巣には貯蜜や貯花粉が残っている⑤多くの場合、巣に女王バチが残っているなど。2010年現在では、米国、カナダ、中南米、インド、中国、日本などにもこのような現象が広がっている。

### 農薬の変遷

1960年代頃、主に使用されていた農薬は有機塩素系農薬(DDT, BHCなど)だった。毒性が強く、生物に及ぼす残留性有機汚染物質の問題から1970年代にはほぼ使用されなくなった。その代替ともなる有機リン系農薬(フェニトロチオン、馬拉ソン、パラチオンなど)は、脳内および末梢の神経伝達物質であるアセチルコリンの働きを阻害し、神経系に作用する農薬だ。近年、農薬の耐性昆虫の出現などから新農薬の開発が進み、1990年代からネオニコチノイド系農薬(アセタミプリド、ジノテフラン、イミダクロプロリドなど)が使用されはじめた。「弱毒性、少量散布で効果があるので減農薬」

直接的な原因と見られているのがネオニコチノイド系農薬だ。ミツバチの神経系に作用し、方向感覚、帰巣本能を狂わせたのではないかと考えられている。しかし日本では、ミツバチの減少は地球温暖化によるダニなどの病害虫の増加、森林伐採による生息地や蜜源となる花の減少、それに伴う栄養不足、ウイルス感染の拡大、農作物の受粉に酷使されるストレスなど、原因が曖昧にされてきた。

アセタミプリドの残留農薬基準値(ppm) (表①)

食品	日本		米国	EU	食品	日本		米国	EU
	現行	改正案***				現行	改正案***		
イチゴ	5	3	0.6	0.01*	茶葉	50	30	50**	0.1
リンゴ	5	2	1.0	0.1	トマト	5	2	0.2	0.1
ナシ	5	2	1.0	0.1	キュウリ	5	2	0.5	0.3
ブドウ	5	5	0.35	0.01*	キャベツ	5	3	1.2	0.01*
スイカ	0.5	0.3	0.5	0.01*	ブロッコリー	5	2	1.2	0.01*
メロン	1	0.5	0.5	0.01*	ピーマン	5	1	0.2	0.3

\*検出限界を基準としている。\*\*米国では輸入茶に対してのみ50ppmの基準値を設定している。\*\*\*2010年3月に提出された。

農薬は、厚生労働省によって食品に対しての残留基準値が定められている。ネオニコチノイド系農薬の中でもアセタミプリドを例にとると、果物などの現行の残留基準値があまりに高いため、今年の3月に改正案が提出された。しかし、改正後の残留基準でも、米国と比べると最高で25倍、ヨーロッパ

は、稲、野菜、果物などの農作物以外に、菊やバラなどの花の栽培、シロアリ駆除、松枯れ防除などに幅広く使用されている。最近では住宅建材にも使用されるようになった。浸透性農薬であるため、植物の根から吸収されて、茎、葉、花、花粉、蜜、果実などすべてに行き渡り、内部から殺虫効果をもち続けているので、洗っても落とすことはできない。

ネオニコチノイドとは、タバコの有害成分ニコチンに似ていることからこの名前が付いている。主な特徴である①浸透性②残効性③神経毒性の問題から、ミツバチを含む昆虫類、生態系への影響が懸念されている。また、このネオニコチノイド系農薬の国内出荷量(有効成分)は約3倍に増加して

### 新農薬の特徴

と謳われ、有機リン系農薬からの切り替えが勧められている。

### ネオニコチノイドは安全か

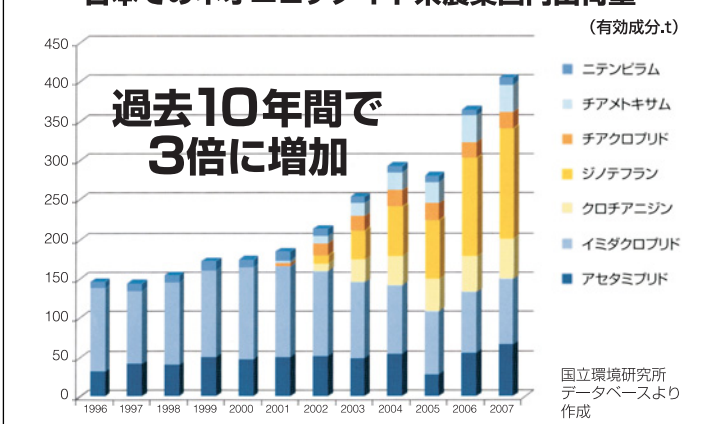
ネオニコチノイド系農薬は、稲、野菜、果物などの農作物以外に、菊やバラなどの花の栽培、シロアリ駆除、松枯れ防除などに幅広く使用されている。最近では住宅建材にも使用されるようになった。浸透性農薬であるため、植物の根から吸収されて、茎、葉、花、花粉、蜜、果実などすべてに行き渡り、内部から殺虫効果をもち続けているので、洗っても落とすことはできない。



学習会のようす

(表②)

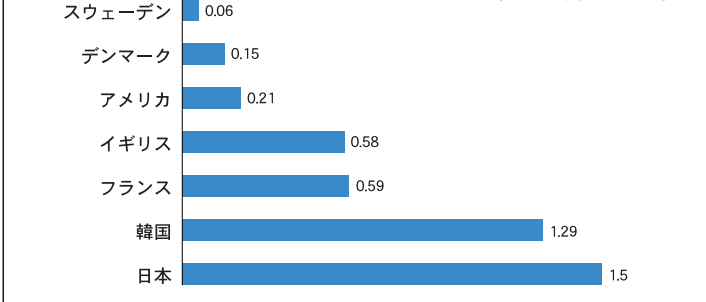
日本でのネオニコチノイド系農薬国内出荷量



(表③)

耕地面積当たりの国別農薬使用量(トン)

単位面積あたりの使用量は米国の7倍 フランスの2.5倍 (OECD調査2002)



# 生活再生ワーカーズ・コレクティブ ともに 設立



2006年にスタートした生活再生事業。立ち上げから5年、現在、ふくおか、おおいた、くまもと、やまぐち、(長崎)の5単協で相談・貸付業務を行っています。生活再生に向かう人々たちを支援する役割を、行政と連携して取り組むまでになりました。

これまで、それぞれの単協で生活再生事業を担っていた相談員が、単協の枠を越えて互いに研鑽し励ましあひながら、より主体的に働くことができる仕組みとして、生活再生ワーカーズ・コレクティブ ともに (以下、「ともに」) を設立しました。

設立総会と記念講演のようすを掲載します。

2010年10月2日、「ともに」の設立総会が、福岡市で行われました。多数の来賓や単協の理事長、組合員、職員など64人が参加しました。

### 設立総会



ともに代表  
北島千恵さん

設立総会は、「ともに」代表北島千恵さんの挨拶ではじまりました。

「生活再生事業は5年目の節目を迎えます。この間、6348件の相談と674件、4.5億円にも及ぶ貸付を行い、事業としては順調にすすんできました。当初の願いどおり、このたびワーカーズ化を果たすことができました。15人の相談員が一つの組織をつくってコミュニケーションをとりながら、相談員総体としてもう一段レベルアップしていきたい」と抱負を述べました。

来賓の福岡県弁護士会弁護士橋本千尋さんから、「貧困の問題はまだ存在します。『名は体を表す』と言います。『ともに』というネーミングのとおり、相談者の自己決定を尊重し、ともに歩む相談員としての活躍を期待しています」と挨拶がありました。続いて、グリーンコープ共同代表理事の田中裕子さんは、「相談者とともに生きていくワーカーズ」の存在は、今後さらに求められていくと思われ、これを公助の場として、社会福祉法人グリーンコープ理事

長の行岡良治さんは、「グリーンコープが地域の生活困窮者をも支援する助けあいの組織に大きく変わる一歩が、生活再生事業の開始でした。それが、抱撲館につながり、今ファイバーリサイクル事業に広がろうとしています。相談員がワーカーズになるということは、一人ひとりの相談員の悩みを仕組みとして解決することになるはずです」と挨拶。グリーンコープが助けあい、支えあう真の生協になっていくきっかけになった生活再生事業の意義を再確認しました。



弁護士  
橋本千尋さん

設立総会の議案はすべて満場一致で可決・承認されました。設立趣意書は「ともに」の悩み、ともに考え、ともに解決し、ともに生きてゆく、そのような私たちがあり続けながら、助けあいと連帯を柱にした社会の仕組みづくりをめざします」という、生活者の立場で新しい地域づくりの一翼を担っていく決意で結ばれています。

### 記念講演

総会終了後には、来賓の厚生労働省社会・援護局地域福祉課課長補佐の荒川英雄さんを講師に「セーフティネット貸付の現状と今後」というテーマで記念講演が行われました。自助、共助、公助の中で、今必要とされている共助の一つとしてグリーンコープの生活再生事

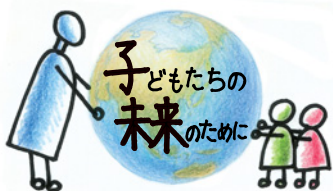


講師 荒川英雄さん

業の果たしている役割を評価。貸付の資金が自前で準備されているために、貸し倒れのリスクを考慮して、低くはない一定の利息をかけるを得ない現状について言及がありました。本来そのリスクは公的な資金で担うべきであり、そのための公的なファンドを準備して運用していくべきであるという新たな公助の考え方が提示されました。

「貧困には、絶対的貧困と相対的貧困があります。お金だけの問題でもありません。お金と愛情、信頼のバランスが大事だと思っています。セーフティネット貸付は、手段としてお金を貸すことではありませんが、相談者の幸せを叶えることだと思えます。ワーカーズという働き方で、生活困窮者の相談に向きあうことは、一人ひとりの生き方に寄り添い、支えるという要素が強くなることだと思います。誰もが安心して暮らせる地域をつくっていくための足算ではなく、掛け算になるはずですよ」とワーカーズになって可能性を広げた生活再生事業への期待が表明されました。

「ともに」はグリーンコープではじめて、男女、経歴の枠を越えたワーカーズとして、15人の相談員(女性12人・男性3人)で新たな歩みをはじめました。



No.29

### 「プルサーマルを考えよう」

佐賀県の玄海原発で2009年12月にプルサーマルの運転が開始されました。その後、愛媛県の伊方原発でも運転がはじまり、全国各地の原発でも計画がすすめられています。

昨年、佐賀県で開催された「NO! プルサーマル佐賀ん会」主催の「人文字フェスタ」には、多くの人々が集まって「NO MOX」と人文字を描いて作りました。MOX燃料とは、プルトニウムとウランを混ぜた核燃料のこと。玄海原発はもともとウランのみを燃やすために作られた原子力発電所であり、そこでMOX燃料を使用するのは危険ではないでしょうか。また、日本で使用されるMOX燃料はプルトニウムの割合が多く、世界でも経験がないものだと思います。こんな危険なものはいらないと思います。

佐賀県では、MOX燃料使用の差し止めを求める裁判ははじまりました。私たちはプルサーマルについて、もっと多くの人に知らせていきたいと思えます。

参考：2010年1月共同体組織委員会主催  
脱原発学習会 広瀬隆さん 資料、講演録より  
裁判名(事件名):「玄海原子力発電所3号炉」  
MOX燃料使用差し止め請求事件  
グリーンコープ共同体組織委員会

投稿欄

## 言・い・た・い

### 私の好きなグリーンコープ商品

安全安心おいしい産直豚肉

生協をはじめた頃は、値段だけ見て、「高い」と思っただけで買いませんでした。でも、一度食べた気が変わりましたよ。市販のものは、うまみがまったく違いますね。肉そのものがおいしいので、調味料を控え目にしても、とてもおいしくいただけます。

近頃は、なるべく安い、ウデ肉やウデ・バラ肉を注文することが多いのですが、なぜ安いのか疑問に思うくらいおいしいです。同等のうまみの市販品を買おうと思えば、あの値段では無理です。

吉里 安由美

### 投稿募集中

- わが家のエコ
- 私の好きなグリーンコープ商品

- 400字程度
- 月切 毎月末
- 住所・氏名・年齢・TEL・所属生協名を明記して郵送またはFAX、Eメールでお送りください。掲載分には図書カード(500円分)進呈。
- 住所・氏名などの組合員の個人情報、本紙に掲載の場合のみ使用します。

※事務所移転にともない住所が変わりました。  
〒812-8561  
福岡市博多区博多駅前1丁目5-1  
カーニープレイス博多4F  
グリーンコープコミュニケーション  
ワーカーズ連 (REN)  
「共生の時代」編集部 宛  
FAX 092-481-7876  
Eメールアドレス  
rikoho@greencoop.or.jp

いま地域を考える

No.208

子どもたちの笑顔に出会える

ボランティア活動が好き

外国語のおはなし会グループ はみんぐるーむ



ミニ劇で天使に扮したスタッフたち。前列左から、林朋果さん、木村ほなみさん、佐伯真紀さん、中村由香さん、後列左から、ユミ・ロイドさん、大下愛さん、森田美咲さん、木村洸士さん、内藤縁美さん

毎月第2土曜日、広島市の国際青年会館（アステールプラザ）で、「外国語のおはなし会（以下、おはなし会）」が行われています。外国語と日本語による読み聞かせに、赤ちゃんから小学生まで、みんな身をのり出して絵本に見入っています。外国語もすんなり耳に入っているようです。

読み聞かせを行っているボランティアスタッフの佐伯真紀さん（グリーンコープ生協ひろしま組合員）、ほかのみなさんに話を聞きました。

多彩な顔ぶれのボランティアスタッフ

外国語のおはなし会グループ「はみんぐるーむ」は、2001年からアステールプラザが募集している広島市国際青年ボランティアが企画・運営し、アステールプラザが事務局を務めている。現在、高校生から30歳くらいまでの60人ほどが登録している。登録したボランティアは、アステールプラザが主催する「外国人との交流会」やおはなし会などに、自由に参加する。おはなし会に集まるボランティアスタッフは、学生、社会人、主婦と、顔ぶれも多様。応募した理由も、英語のスキルアップ、ネットワークを広げるため、友だちに誘われたから、などさまざま。でも一様に、「ボランティアの活動に興味があった」、「子どもが好き」と口を揃える。



クリスマスの時は、サンタの扮装をしたスタッフが絵本の読み聞かせをする。子どもたちはくい入るように絵本に見入っている

手づくりのおはなし会

おはなし会の活動は、絵本選びからはじまる。練習日である本番前の週の水曜夜に参加できるスタッフが集まり、当番のスタッフが図書館で借りてきたものの中から、季節感のあるもの、仲間の大切さを伝えるものなど、みんなで話しあって2〜3冊を決める。英語の本が多いが、スタッフに対してできる人がいれば、韓国語や中国語の絵本を選ぶこともある。日本語の訳がついていない本は、スタッフが訳してやる。ハロウィンやクリスマスの時季などは会場の装飾や衣装にも工夫を凝らすなど、雰囲気作りも大切にしている。

ミニ劇にトライ

今年10月のおはなし会では、初めてのミニ劇に挑戦した。イギリスで舞台演劇を勉強したユミ・ロイドさんが中心となり、ストーリーを歌ったり、手遊び歌で楽しく遊ぶ。その月の誕生日の子にハッピーバースデーソングを歌い、おはなし会は終了。子どもたちは出席カードに貼るシールをもらい、ご満悦で帰って行く。幼稚園の頃から毎回通っているという小学4年生の西本祐輝くんは、「おはなし会、おもしろいよ！英語のフレーズもなんとなく頭に入ってくる」と目を輝かせた。

絵本の読み聞かせは、セッションごとに最初は外国語で、次に日本語で、と繰り返しながら読みすすむ。声の調子を変え、時にジェスチャーも交えながらストーリーを盛り上げる。子どもたちはどんどん話に引き込まれていく。はじめは落ち着きのなかった子も、しだいに絵本にくぎづけに。読み聞かせの次は英語の歌



雪と氷をつくる先生の場面

ミニ劇当日に集まったスタッフは9人。自由参加なので毎回参加人数は異なる。「強制じゃないからスタッフが少ない時もあります。忙しい中集まって活動しているから、スタッフ同士が話し込める時間も少ない。

喜んでもらいたいが

でもこの活動のスタッフは、とても雰囲気がいい。活動が続いているのは、人と話るのが好き、人を喜ばせたいと思っている人たちがばかりなんです」と、「はみんぐるーむ」の活動開始当初から関わってきた佐伯さん。当日のメンバーである木村ほなみさん、大下愛さんは「おはなし会のスタッフと活動するのはとても楽しい、林朋果さんも「ここにいと居心地がいい」と活動を楽しんでいるようすが伝わってくる。当日黒一点（っ）の木村洸士さんは「ルールを決めずに枠の中で自由に活動できることが、このボランティアの魅力」と軽やかに語る。

でもこの活動のスタッフは、とても雰囲気がいい。活動が続いているのは、人と話るのが好き、人を喜ばせたいと思っている人たちがばかりなんです」と、「はみんぐるーむ」の活動開始当初から関わってきた佐伯さん。当日のメンバーである木村ほなみさん、大下愛さんは「おはなし会のスタッフと活動するのはとても楽しい、林朋果さんも「ここにいと居心地がいい」と活動を楽しんでいるようすが伝わってくる。当日黒一点（っ）の木村洸士さんは「ルールを決めずに枠の中で自由に活動できることが、このボランティアの魅力」と軽やかに語る。

「ボランティアというより、逆にこちらのほうが楽しませてもらっています。年齢に関わらず、子どもからお年寄りまでいろんな人と関わっていききたい。人に喜んでもらうのが好きなんです」と佐伯さんが話していた。10年近く活動を続けてきた佐伯さんが、12月に第一子を出産予定。「これからは子どもを連れて、見るほうで参加できるのが楽しみです」。若いエネルギーにあふれる「はみんぐるーむ」のボランティアたち。佐伯さんらの意思を受け継ぎ、これからも活動を充実させ、地域の子どもの笑顔を育んでいくに違いない。

2010年10月の組合員数 405090人 (10/26現在) 2010年9月分

Recycling and environmental data table including categories like リユースリサイクルデータ, 牛乳びん, トレー, モウルドパック, 仕分け袋, フードマイレージ (69,173,573.3 CO2), and アジア民衆基金 (12,419,887円).

放射能汚染測定結果報告(204) 2010年9月

Table with 5 columns: 検体名, 産地, セシウム134, セシウム137, 合計ベクレル/kg. Rows include items like 鶏飼料, 鶏肉, スパゲッティ, オリーブ油, ホホワイトペッパー.